

施策・事務事業マネジメントシート【令和8年度】

【施策と関連するSDGsの目標（ゴール）】



1 施策の基本情報(Plan)

施策名		04 学校教育の充実
目的	対象	小・中学生
	意図	基礎的な知識や社会性、体力が身に付き、自ら学び、考える力を培う
施策の方向		次代を担う子どもたちが、それぞれの個性を伸ばし、主体的に考え、生きる力を育むための機会を推進するとともに、支援を必要とする子ども一人一人に応じた学びと成長を促します。また、そのために必要な環境を整えます。

2-1 施策全体の考察①（施策の目的、方向に対する考察）

施策の目的、方向に対する考察（PDCAサイクルにおけるCheck・Action）

・調布の子どもたちが、徳・知・体の調和のとれた成長と、国際化、情報化の進展など、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けることを目指し、ICT環境の整備や活用の推進、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の計画的な導入、市の実態に合った市立中学校部活動の地域連携・地域展開の実現に向けた検討、不登校生徒を支援するための中学校教育支援センターの開設、教育支援コーディネーターやスクールソーシャルワーカーによる支援体制の充実、「第2期調布市特別支援教育推進計画」に基づいた特別支援教育の推進などを行った。
・日々変化を続ける社会情勢や教育環境を注視しながら、引き続き学校教育の充実に努めていく。

2-2 施策全体の考察②（まちづくり指標の推移／考察）

まちづくり指標	単位	基準値 (基準年度)	実績値 (目標年度)			目標値	指標の推移	考察 (目標達成の要因、課題、目標達成に向けた今後の取組の方向等)
			(令和5年度)	(令和6年度)	(令和7年度)			
「いじめはどんな理由があってもいけないこと」を理解した児童・生徒の割合	%	(小学校) 95.6 (中学校) 95.6 令和4年度	(小学校) 95.3 (中学校) 93.9	(小学校) 95.3 (中学校) 94.7	(小学校) 95.5 (中学校) 95.7	(小学校) 100 (中学校) 100 令和8年度	○	中学生職場体験事業や移動教室等の体験活動の実施に加え、児童生徒の普通救命講習や教員の上级救命講習の実施、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた校内の情報共有や関係機関との連携、人権・道徳教育の取組等を通じて、豊かな心の育成を推進した。
全国学力・学習状況調査（国語・算数（数学））における東京都の平均正答率を上回った各科目の合計ポイント数	ポイント	(小学校) 4 (中学校) 5 令和4年度	(小学校) 3 (中学校) 3	(小学校) 3 (中学校) 7	(小学校) 3 (中学校) 8	(小学校) 7 (中学校) 7 令和8年度	(小学校) ⇒ (中学校) ◎	少人数・習熟度別指導等の充実、児童生徒の主体性を重視する授業づくりに対する指導・助言を行い、児童生徒の基礎的知識・技能の習得や学習満足度の向上を図った。
「主体的・対話的に学習活動に取り組んだ」と考えた児童・生徒の割合	%	(小学校) 77.1 (中学校) 77.0 令和4年度	(小学校) 76.7 (中学校) 78.1	(小学校) 78.5 (中学校) 81.9	(小学校) 78.3 (中学校) 79.2	(小学校) 90.0 (中学校) 90.0 令和8年度	▼	ICTを授業で効果的に活用する機会を教員に設定させるとともに、日常的に授業改善を行うための視点を示し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動の充実に図った。
東京都「児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」における東京都（各学年・男女別）の体力合計点と市の体力合計点の比較	ポイント	(小学校)▲3.7 (中学校)1.8 令和4年度	(小学校)▲1.3 (中学校)5.8	(小学校)▲3.3 (中学校)8.2	(小学校)▲1.8 (中学校)8.1	東京都の平均値を上回る 令和8年度	(小学校) ○ (中学校) ◎	引き続き、日常における運動習慣の確立に向けて、体力向上に関する取組を充実させる。

体育の授業における、体力・運動能力向上の目標を立てている児童・生徒の割合	%	(小学校) 男69.8 女62.5 (中学校) 男61.3 女56.9 令和4年度	(小学校) 男67.0 女61.6 (中学校) 男62.9 女61.2	(小学校) 男73.4 女64.9 (中学校) 男68.9 女57.0	(小学校) 男69.6 女62.4 (中学校) 男65.4 女60.5	(小学校) 男75.0 女75.0 (中学校) 男70.0 女70.0 令和8年度	(小学校) 男▼ 女▼ (中学校) 男▼ 女○	・児童生徒が運動に主体的に取り組んだり、体育を学ぶ意義や目的を理解したりすることができるよう授業改善を進めた。 ・学校において、体力・運動能力に関する具体的目標を定め、課題となっている運動内容について改善を図る取組を進める。
通常の学級における、特別な支援が必要な児童・生徒の数に対する個別指導計画の作成率	%	(小学校) 88.9 (中学校) 69.0 令和4年度	(小学校) 93.4 (中学校) 99.6	(小学校) 96.3 (中学校) 100	(小学校) 94.8 (中学校) 100	(小学校) 100 (中学校) 100 令和8年度	(小学校) ▼ (中学校) ◎	個別指導計画の作成率は、小学校で若干減少したものの、全体としては着実に向上している。各学校において個別指導計画の意義が浸透し、校内支援体制や管理職による進行管理が定着してきた成果と考えられる。今後は、小学校における作成率の向上に加え、計画を日々の指導や支援の改善につなげる活用の充実を進めていく。
コミュニティ・スクール導入校数	校	未設置 令和4年度	3	15	28	28 令和7年度	◎	新たに小学校9校、中学校4校にコミュニティ・スクールを導入し、令和7年度をもって小・中学校全校への導入が完了した。
調布市防災教育の日の参加者数	人	1万7811 令和4年度	2万9959	3万905	3万1398	3万 令和8年度	◎	・学校教育活動の公開を継続し、保護者や地域住民の参加者が増えた。 ・昨年度実施した避難所体験を継続し、対象を「小6児童、中3生徒及びその保護者」から「小4～小6児童・中学校全学年」へ拡充し、市職員・地域住民が設置した避難所を体験した。 ・市、学校、地域及び関係機関が、災害時に適切な対応ができるよう、取組を継続する。
耐用年数を基本に屋上防水・校舎の外壁・受変電設備が予防保全できている学校の割合	%	(屋上防水)100 (外壁)100 (受変電設備)100 令和3年度	(屋上防水)100 (外壁)100 (受変電設備)100	(屋上防水)100 (外壁)100 (受変電設備)100	(屋上防水)100 (外壁)100 (受変電設備)100	(屋上防水)100 (外壁)100 (受変電設備)100 令和8年度	◎	・調布市基本計画、調布市公共施設マネジメント計画及び調布市学校施設整備方針に基づいた計画更新年数内での周期的な改修を実施することにより、目標を達成した。 ・引き続き、計画更新年数内での周期的な改修を実施していく。

※ ◎：目標達成 ○：目標値を未達成（前年度より向上した） ▼：目標値を未達成（前年度より低下した） ⇒：目標値を未達成（前年度と同じ又は前年度数値未把握） —：数値未把握（調査未実施など）

3 施策を構成する基本計画事業等の取組実績／今後の方向

■04-1 豊かな心の育成

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)	今後の取組の方向(Action)
①「調布市防災教育の日」や「いのちと心の教育」月間において、「命」の授業を実施することで、自他の生命を大切にすることや、他者との違いを理解し、互いに認め合うことができる心豊かな教育活動を推進した。 ②いじめに関する授業を実施し、いじめは人間として絶対に許されない人権侵害であることを理解させ、よりよい集団生活を築こうとする態度の育成を図った。 ③ハケ岳移動教室、日光移動教室及びハケ岳スキー教室を全校予定通り実施した。また、中学生職場体験事業を実施した。	①引き続き、「命」の授業や「いのちと心の教育」月間に計画的に取り組むとともに、取組の質の向上に向けて、校長会等を通じて指導を行っていく。 ②多様な人権課題について指導を充実し、人権意識の向上を図る。 ③引き続き、多様な体験活動の場を確保・充実することで、豊かな人間性や意欲の育成に努める。

■04-2 確かな学力の育成

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
17	【重点②】 ICT環境の整備・活用と 情報教育の推進	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・令和8年3月に児童生徒用学習端末について、全台一斉に更新を実施した。 ・普通教室の増加に伴い、固定式プロジェクターセットを追加で整備するとともに、耐用年数が超過したプロジェクターの一部を更新し、ICT環境の充実を図った。 ・令和8年3月からICT支援員による学校訪問型の研修を月5回に増回して実施した。また、各種ICT機器の使用マニュアルの整備等、学校のニーズに応じたきめ細かな支援を実施した。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・耐用年数が超過した校務支援システム及び学校図書館システムのサーバーをクラウドへ移行し、システム保守・運用管理の効率化、セキュリティの向上及び災害対策機能の強化を図る。 ・ICT支援員の配置を拡充し、各学校のニーズに合わせた授業支援及び校内研修を行うとともに、教員のICTを活用した指導力の向上に資する取組を推進する。 ・クラウドサービスを活用するに当たってのルールやマナーの指導など、情報モラル教育の充実を図る。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)				今後の取組の方向(Action)	
①小中連携教育の日を設定し、9年間を見通した教育活動の実施と情報共有の強化を図った。 ②日本語指導教室の開催や日本語指導臨時講師を派遣し、日本語による会話等に困難を有する児童生徒を支援した。 ③外国語指導助手(ALT)やTOKYO GLOBAL GATEWAY(TGG) GREEN SPRINGSを活用し、外国語を用いたコミュニケーション能力の育成を図った。 ④各学校の学校図書館全体計画及び年間指導計画に基づき、児童生徒の読書活動や学習支援の充実につなげた。				①調布市小中連携教育の日を設定し、中学校区の学校が一堂に会して、情報交換等を行う。 ②それぞれの事業を活用しながら個々の児童生徒の実態に応じた指導内容や指導方法の充実を図る。 ③引き続き取組を推進し、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る態度や力を養う。 ④各学校の学校図書館全体計画及び年間指導計画に基づき学校図書館の活用を推進する。	

■04-3 健やかな体の育成

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
18	児童・生徒の体力向上への支援	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・一流アスリートを指導者として、学校への出前授業を行うとともに、教員向けの指導方法の研修を行った。 ・ジュニア陸上体験教室を実施し、児童生徒が走り方の基礎・基本及びトレーニング方法の指導を受けた。 ・児童生徒の身体活動量の増加を図り、健康保持・増進及び体力向上につなげる取組として、「ちょこプラ1調布」を全小・中学校で実施した。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・小学校2校を研究指定校として設置し、学校生活の中で身体活動量を上げる取組を推進するとともに、運動への意欲を高める研究を行い、市内全校に成果を普及する。 ・ジュニア陸上体験教室や、トップスポーツチーム及びパラスポーツ団体による学校への出前授業を継続的に実施する。 ・教員の体育における指導力向上を目指し、実技研究の充実を図る。 ・水泳指導員や運動部活動における外部指導員等、地域人材等の更なる活用を推進し、基礎体力の向上及び専門的技能の習得を図る。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)				今後の取組の方向(Action)	
①FC東京、読売巨人軍、東芝ブレイブルーパス東京などのトップスポーツチームの選手との交流を通して、体力・運動能力の向上を図るとともに、スポーツの魅力を伝える取組を行った。 ②市立小・中学校全校において、給食の時間等を活用した食育を推進した。 ③市制施行70周年調布市食育講演会を実施した。(9月21日) ④市制施行70周年記念給食を実施した。(10月) ⑤長野県木島平村姉妹都市盟約40周年記念給食を実施した。(6月・11月)				①スポーツ振興課等と連携し、トップスポーツチームによる学校訪問や地域イベントを通じて、児童生徒がスポーツの魅力に触れる機会を創出する。 ②引き続き、給食の時間等を活用した食育を推進する。 ③④⑤FC東京とのコラボ給食を実施し、児童が自身の食事の栄養バランス等に関心を持ち、また、家庭での栄養指導の一助となるよう、食育を推進する。	

■04-4 個に応じたきめ細かな支援

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
19	【重点②】 特別支援教育の推進	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・第2期調布市特別支援教育推進計画を推進するとともに、その取組の成果と課題を検証し、改善策を検討した。 ・校内通級教室巡回指導教員、スクールサポーター及び特別支援学級支援員等の配置により、特別な支援を要する児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな支援を行った。 ・マルチメディアデジ教科書について、校長会や副校長連絡会などを通じて学校に紹介し、利用促進を図った。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・第2期調布市特別支援教育推進計画の進捗管理を行うとともに、次期計画の策定を見据え、成果と課題を踏まえた施策の充実を図る。 ・特別支援学級における教科の指導内容表を作成・活用する。 ・通常の学級、特別支援学級及び校内通級教室等の教員をはじめ、スクールサポーター、特別支援学級支援員、特別支援教育コーディネーターを対象とした研修の充実を図る。 ・デジ教科書の利用促進を図るとともに、特別支援教育に有効なアプリケーションの活用を研究するなど、児童生徒の教育的ニーズに応じた支援につながるよう、デジタルの整備・活用に取り組む。
No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
20	【重点②】 不登校児童・生徒への支援	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・調布市不登校児童・生徒への支援プランに基づく取組を推進するとともに、その成果と課題を検証し、改善策を検討した。 ・不登校の未然防止のため「魅力ある学校づくり調査研究事業（国立教育政策研究所）」の取組を継続した。 ・教育支援コーディネーターを増員し、訪問型支援「みらい」の実施による不登校児童生徒への支援の充実を図った。 ・中学生を対象とした教育支援センター「CANVAS」を新たに開設した。 ・オンライン上の仮想空間を活用した新たな居場所として「バーチャル・ラーニング・プラットフォーム」を開設し、不登校児童生徒の新たな居場所とした。心理職2人が対応した。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・調布市不登校児童・生徒への支援プランの進捗管理を行うとともに、次期支援プランの策定と施策の充実を進める。 ・不登校の未然防止に向けた取組を継続する。 ・東京学芸大学と連携し、不登校児童生徒支援プロジェクトSWITCH（「メンタルフレンド」「テラコヤ・スイッチ」「学校に行きづらい子どもの保護者のつどい」）の取組を継続して実施する。 ・新たに開設した教育支援センター「CANVAS」の安定的な運営を図り、支援内容の充実・改善を図る。 ・引き続き、「バーチャル・ラーニング・プラットフォーム」を運営する。
No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
21	学校における「学び」に困難を抱える子どもたちへの支援	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・心理・医療等の専門家が必要に応じて各学校を巡回し、子どもに関する助言を教員に行うことで、学びに困難を抱える子どもたちへの支援に寄与した。 ・スクールソーシャルワーカーを増員し、各中学校及び一部の小学校を拠点として、小・中学校全校に週1日以上配置することで、関係機関との円滑な連携をはじめ、支援強化につなげた。 ・小・中学校全校に、児童生徒の相談窓口として、スクールカウンセラーを配置し、教職員と連携して支援を行った。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・教育支援コーディネーターやスクールソーシャルワーカーが、不登校や特別な支援を必要とする児童生徒、養育が困難な家庭等の相談を受け、学校や関係機関と連携しながら、適切な支援につなげていく。 ・教育支援相談（来所相談・電話相談・就学相談・巡回相談）を継続して実施し、様々な状況の児童生徒に対する個に応じたきめ細かな支援の充実を図る。 ・スクールカウンセラーの小・中学校全校への配置を継続し、教職員と連携して児童生徒の学校生活での様々な問題に対応していく。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)	今後の取組の方向(Action)
①学校に行きづらい子どもとその保護者への支援として、小学1～3年生とその保護者を対象に「表現あそび」事業を2回実施し、実技体験プログラムや保護者同士のグループワークを行い、小学生4人とその保護者が参加した。 ②③不登校対応巡回教員を2人に増員し、中学校全校を巡回し、不登校の未然防止・早期対応に係る取組の充実を図った。	①小学1～3年生とその保護者を対象にした事業を実施し、学校に行きづらい子どもとその保護者への支援を充実させる。 ②校内別室（校内教育支援センター）を全校に設置し、不登校及び不登校傾向の児童生徒の新たな学びの場を充実させる。 ③引き続き、不登校対応巡回教員を配置し、中学校全校を巡回し、不登校の未然防止・早期対応に係る取組の充実を図る。

■04-5 魅力ある学校づくりの推進

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
22	【重点②】 コミュニティ・スクールの導入と地域学校協働本部との一体的推進	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・コミュニティ・スクールを新たに小学校9校、中学校4校で導入した。 令和7年度をもって、小・中学校全校への導入が完了した。 ・新任転任学校管理職・新任転任教員研修会を開催し、制度の理解促進を図った。また、実践発表会を開催し、令和7年度導入校の代表2校による発表やグループ交流を行うことで情報共有を図った。 ・地域学校協働本部において、学習支援員や部活動外部指導員など地域人材を積極的に活用し、学校教育活動の充実を図った。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・地域学校協働本部事業における管理職連絡会、地域コーディネーター連絡会を開催し、管理職や地域コーディネーター同士の情報共有を図ることで、事業の更なる活性化につなげる。 ・指導室に所属する統括コーディネーターが学校を訪問し、適宜管理職や地域コーディネーターに指導・助言することで、学校におけるコミュニティ・スクールや地域学校協働本部の運営を支援する。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)	今後の取組の方向(Action)
①スクール・サポート・スタッフ及び副校長補佐の全校配置、部活動指導員の増員、エデュケーション・アシスタントの継続配置など、学校への人的支援を行い、教員の負担軽減及び学校教育の質の維持・向上を図った。 ②生徒にとって魅力あるスポーツ・文化芸術活動の確保及び教員の負担軽減を目的とし、市の実態に合った市立中学校部活動の地域展開等の実現に向けた取組として、令和6年度に引き続き、トライアル事業を実施した。 ③学校徴収金（給食費及び教材費）の管理についてアウトソーシングを活用し、帳票類の作成等に係る教職員の事務負担の軽減に努めた。 ④中学校学校選択制において ・児童及び保護者が各学校の情報を把握できるよう、9月～10月に各中学校が実施する学校説明会の日程を市ホームページ及び小学校6年生の児童保護者に「すぐー（調布市学校安全・安心情報配信システム）」で周知した。参加できなかった保護者に対しては、各中学校が資料の配布や学校ホームページへの掲載を通じて、内容の周知に努めた。 ・令和6年度に実施した学校選択制に関する検証報告書の中で、児童や保護者が適切に学校を選択できるよう示した制度の早期周知に関する取組を2点実施した。 1点目「すぐー」を活用した小学校全児童の保護者に制度の案内。2点目、児童・保護者に必要な情報を提供するため作成している、小学生向けの学校案内（全8校分）を小学校第6学年の全家庭に配布した。また、これまで小学校第5学年に制度の案内チラシを配布していたが、より早期の制度周知を推進するため、小学校第4学年から制度の案内チラシを配布した。 ⑤中学校学校選択制において、教室数など施設状況の観点などから入学希望者の多かった第六中学校のみ抽選を実施したが、適切な制度運用を図りながら新入生の入学を決定したことで、個性の伸長を促進することができた。	①学校における働き方改革プランに基づき、人的支援を充実し、教員の負担軽減を図る中で、教員が児童生徒に向き合う時間を一層確保できるよう取組を継続する。 ②国のガイドラインや市の実態を踏まえた「調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に関する推進計画」の改定を行い、まずは、休日部活動において、令和9年度以降における段階的な地域展開等の実現に向けて、引き続き、課題の整理や検討を行う。 ③学校徴収金（給食費及び教材費）の管理について、引き続き、アウトソーシングを活用し、教職員の事務負担の軽減に努めるとともに、学校給食費公会計化の検討を行う。 ④⑤児童や保護者が適切に学校を選択できるよう、「すぐー（調布市学校安全・安心情報配信システム）」を活用した制度の周知などを行うとともに、引き続き、必要な情報を分かりやすく提供する。

■04-6 安全・安心な学校づくりの推進

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
23	【重点①】 命の教育活動の推進	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・「調布市防災教育の日（4月）」（「命」の授業、防災啓発講話、避難・引取訓練の実施、避難所開設訓練及び避難所体験）や「いのちと心の教育月間（12月）」において、自他の生命を大切にすることや、他者との違いを理解し認め合うことの重要性について考える授業を実施した。 ・教員に対する上級救命講習、児童生徒に対する救命講習を実施した。 ・各校2人の教員が応急手当普及員の資格を保有し、その知識を児童生徒及び教員に還元する体制を維持した。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・防災教育の日における取組を引き続き推進し、市、学校、地域及び関係機関が災害時に適切な対応が行えるような取組を継続する。 ・「いのちと心の教育月間」に計画的に取り組むとともに、取組の質の向上に向けて校長会、副校長連絡会等を通じて指導を行っていく。 ・教員に対する上級救命講習、児童生徒に対する救命講習を継続する。 ・応急手当普及員の講習会・研修会等を継続する。 ・教員の応急手当普及員を各校最低1人以上配置できるよう講習会の調整を行うほか、応急手当普及員集合研修を実施し、普及員が教職員向けの校内研修を効果的に実施する。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)	今後の取組の方向(Action)
①「GIGAワークブックとうきょう」を活用した情報モラルに関する知識の習得と併せて、調布警察署と連携した安全教育などのセーフティ教室を推進した。 ②児童生徒が相談できる環境の整備や自殺予防に関する知識を身に付けることを目的に、SOSの出し方教育を実施した。 ③学校・調布警察署・道路管理者とともに通学路において改善が必要な箇所の合同点検を実施し、可能な限り安全対策を実施した。 ④通学路等を撮影する防犯カメラの維持・更新を行うとともに、通学路マップの作成・配布などの安全対策を実施した。	①セーフティ教室や生命（いのち）の安全教育を継続的に推進する。 ②SOSの出し方教育を各校の教育課程に確実に位置付けるよう促し、学校が計画的に実施できるように体制を整備する。 ③学校・調布警察署・道路管理者に加え、地域と連携を図りながら通学路の安全確保を図る。

■04-7 学校施設整備の推進

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
24	【重点②】 小・中学校施設の整備	☐ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☒ 計画遅れ	・学校施設の維持保全を実施した。 予防保全（工事3校）、老朽化対策（設計2校・工事8校）、給食室改修（設計1校、工事1校）。 ・学習環境の改善を図った（設計2校、工事1校）。 ・トイレの部分改修を実施した（8校24室）。 ・学校施設整備方針に基づく整備を推進した。 若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の一体型施設整備に伴うPFI事業の実施設計が完了し、建設工事に着手した。 ・「ゼロカーボンシティ調布」の実現に向け、校舎内照明器具のLED化改修工事を実施した（工事1校）。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・若葉小学校、第四中学校及び図書館若葉分館の一体型施設整備の実施に向け、引き続き建設工事を進める。 ・「ゼロカーボンシティ調布」の実現に向け、引き続き校舎内照明器具のLED化改修工事を実施する。 ・安全・安心で快適な教育環境の整備を行うに当たり、「調布市公共施設マネジメント計画」及び「調布市学校施設整備方針」に基づく計画的な維持保全改修として、体育館改修工事、食物アレルギー対策等に資する給食室の改修工事を実施するとともに、トイレの部分改修も順次進めていく。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)	今後の取組の方向(Action)

4 施策の推進、成果向上の視点（4つの視点）を踏まえた令和7年度の実績及び令和8年度の具体的な取組

デジタル技術の活用	共創のまちづくり
・ICT機器を活用した指導の充実【令和7年度・8年度】	
脱炭素社会の実現	フェーズフリー
・学校校舎内照明器具のLED化改修について、令和7年度には中学校1校で実施した。令和8年度には、令和7年度から繰越した小学校5校を完了させるとともに、小学校5校、中学校3校において実施する予定である。【令和7年度・8年度】	・若葉小学校・第四中学校及び図書館若葉分館の一体型施設整備において、学校のハード面における取組を検討する。【令和7年度・8年度】